



## 川の伝統漁法には、どんなものがあるの

### 地方によって、いろいろ見られる

昔から、ずっと伝えられている漁法を、伝統漁法といいます。日本各地で、今でもいろいろな伝統漁法による漁が行われています。

おもなものに、網を使う「網漁」、竹を筒状、またはとっくり状に編んだ道具を使う「うけ漁」、やなというしかけを使う「やな漁」、魚をおどかしてとる「いかく漁」、川に網をはる「定置網漁」などがあります。かわったものでは、鳥のウを使う「う飼い漁」があります。

また、それぞれの地方によって、特徴のある漁法が見られます。たとえば、四国を流れる四万十川では、投網、地びき網、筒コロバシ、箱コロバシ、カニかご、シラス、しめなわ、火ぶり、ガラひき、イタチ、柴づけ、石ぐるなどという漁法が見られます。

### 消えつつある伝統漁法

日本は、南北に細長い国土であるので、気候や土地の条件がちがっていて、それぞれの自然条件にあった、いろいろな魚が見られます。また、独自の漁法も生み出されました。

ところが、最近の川は、大規模なダムが築かれたり、コンクリートで護岸工事がされ、さらに、川の水がよごれたために、魚が減ってしまいました。そのため、これまで続いていた伝統漁法が、ほろびてしまったところもあります。今でも行われているところでも、あとつぎがないために、伝統漁法が消えそうになっているところが多いのです。

(監修・保岡 孝之)

